

学校の目標
社会の変化に自ら対応でき、豊かな心を持ち、表現力豊かな国際人を目指し、次のような子どもを育成する。
・よく考え、進んで学習する子ども
・いつも元気で、しようぶな子ども
・こころ豊かで、やさしい子ども

目標をもって生活することの大切さ

副校長 中村正人

短い夏休みもあっという間に過ぎ、いよいよ二学期がスタートします。子どもたちは一学期の成果と課題を受け、気持ちを新たに新学期を迎えていることと思います。矢口小学校の子どもたちはどのような思いで二学期を迎えようとしているのでしょうか。

私が目標をもって生活することの大切さに気付くことができたのは、中学三年生のときでした。

私は小学生のときからサッカーを習っていて、中学校に進学したときにも、引き続きサッカー部に所属しました。当時は今以上に先輩と後輩の関係、所謂、部活動内の縦社会は厳しく、体調を崩す以外、放課後に補習で残されて練習に参加できなくても、次の日に先輩から指導を受けていました。練習への欠席が二回、三回と続くともう、元のよう

に練習に参加することができなくなる位の緊張感があり、入学当時、三十名近くいた、同じ学年の部員は次々と辞めていきました。

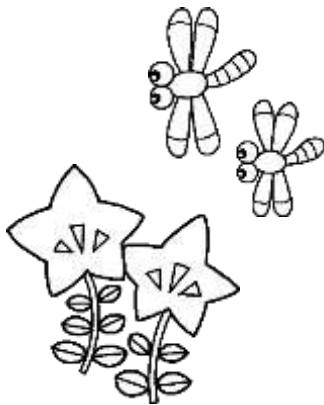
私は当時から学業も部活動もいたって普通の生徒でしたので、周りの友達についていくことをまず目標として、決められた時間に集中して学習するようにしました。すると効果は少しずつ表れるようになりました。二学期末の成績が伸び、気兼

ねなく部活動に参加することができるようになりました。すると自分を見る、周りの友達の間も変わってきました。それまで以上に学習も部活動も一生懸命に頑張っていると、周りの友達も自分のことを認めてくれるようになり、それはやがて自分自身の自信にもつながりました。

最初は「先輩に怒られたくない」という部活動の本来の目的とは大きく違う理由がきっかけとなったのですが、結果的に目標をもって学校生活を送るようになり、充実した日々を送ることができるようになりました。「やりたいこと(サッカー)」がそのときあったため、「やらなければならぬこと(学業)」を自主的に取り組むことができるようになったことは、今の私の生活にも大きく影響しています。

「小学生」という時期に自分が好きなことや自分が輝くことができるものをすぐに見つけることは難しいかもしれませんが、まずは達成しやすい目標をもって、日々、生活してみることもよいことです。

今学期も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、保護者の皆様には様々なご協力をお願いすることになると思いますが、引き続き、子どもたちが安心して通うことができる学校を創って参りますので、今後もお力添えをどうぞよろしくお願い致します。



健康な生活に目を向ける機会

養護教諭 大東 碧

例年なら四月から六月にかけて行う定期健康診断を、今年度は七月から順次実施しています。家の中で過ごす時間が増え、いつもと違う生活リズムで過ごすことで、子どもたちの身体に変わった様子がないか心配していました。しかし、どの子どもも昨年度の一月の計測時と比べてぐんと身長が伸び、すくすく成長していることを実感し安心しました。幸い、毎年夏に流行る感染症の報告も今の所受けていません。大人も子どもも今まで以上に意識して、手洗いなど感染予防の行動を実践している効果だと感じています。健康診断には「自分の身体や健康について関心を持ち、健康に過ごす習慣を身に付ける」という目的もあります。コロナ禍だからこそ、病気になるために、より健康な生活に目を向ける機会と捉え、一人一人が自分の健康を考えて過ごしてほしいと思います。

八・九月生活目標

「落ち着いた生活をしよう」

生活指導部

二週間という短い夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。まだまだ暑さが続きますが、熱中症に気を付けながら、二学期も様々な活動や学習をしていきましょう。

校門で挨拶をしていますと、まだ眠そうな顔をしている子どもの姿が見受けられ、まだ生活リズムを取り戻していない様子が伺えます。「早寝早起き朝ごはん」を基本に、徐々に規則正しい生活リズムを取り戻して、健やかな体と、元気な心で落ち着いた学校生活を過ごせるようにしていきます。